

野生動物を考える

～ ご存知ですか？カラスの習性～



例年、この時期になるとカラスに関する相談が多くなります。

カラスは、春から初夏にかけて巣作りをし、卵を産んでヒナが飛び立つまで育てます。

この子育ての時期に人間が巣やヒナに近づこうとすると、親カラスは子どもを守ろうとして近づくと人間を威嚇し、遠ざけようとします。子どもを守ろうとする気持ちは、人間もカラスも同じです。

今回は、カラスの習性を知り、そのうえで私たちができる対策を考えてみましょう。



カラスの威嚇行動の特徴

- 近づく人間のそばをかすめるように飛んだり、人間の頭部を足で蹴る（よく「頭をカラスにつつかれた」という話がありますが、カラスは体の構造上、飛びながらくちばしでつつくということはできません）
- 威嚇行動は、子育ての時期のみ見られる（食べ物を得るための威嚇はしません）
- 威嚇行動をするのは父カラスと母カラスの2羽のみで、集団で襲ったりはしない
- 卵やヒナがいる縄張りから人間が離れると威嚇をやめる



威嚇されないためには

巣や子カラスに近づかないことが第一です。カラスの警戒領域は巣から約40～50mといわれており、人が警戒領域の中に入ると鳴き声で威嚇します。道を歩いているときなどに、カラスが「ガーツ、ガーツ」と威嚇するように鳴いていたり、小枝を折って落としてきた場合、近くに巣やヒナがいるために親カラスが威嚇していますので、迂回路があれば回り道をするようにしましょう。やむを得ず通らなくてはいけない場合は、つばのある帽子をかぶったり傘を差すことで攻撃を防ぐことができます。

また、その場から遠ざかることで威嚇行動を避けることができますが、カラスは人間の背後を狙って飛んできますので、カラスに背を向けず、カラスから目をそらさないように遠ざかりましょう。

そのほか、巣を見上げたり窓ガラスやベランダ越しに巣を見下ろすことで、親カラスに敵と見なされることもありますので注意しましょう。

間違ってもカラスを遠ざけようと棒を振り回したり石を投げたりしてはいけません。カラスの攻撃心を刺激するなど逆効果となります。



カラスに巣を作らせないために

カラスを自分から遠ざける手段として、カラスに巣を作らせない環境づくりが有効です。

庭木の枝が生い茂っているとカラスに巣作りされやすくなりますので、木の枝の三つ又になったところを剪定し二又にすると巣を作られにくくなります。また、針金製のハンガーなど、巣材に使われそうなものを野外に放置しないようにしましょう。

そのほか、付近のごみステーションを清潔に保つなど、餌となるものが無い状況を作りましょう。



カラスの巣を発見したときは

カラスのヒナは、ふ化してから1か月ほどで巣立ちます。この間に巣に近づくとヒナを守ろうとする親カラスに襲われる危険性が高くなりますが、巣立ってしまえば襲われることはなくなります。威嚇をされ襲われるなどの被害がある場合は、市役所へご連絡ください。

また、カラスの巣は、鳥獣保護管理法により勝手に撤去できず、市の許可が必要です。ただし、すぐに撤去すると、親カラスはこれ以上人間に大切な子どもをとられまいとして、さらに攻撃的になる例もあります。このため、生活環境に影響を及ぼすような被害のある場合以外は、刺激せず見守ったほうが良い場合もあります。